

コンパス薬局横浜西 スキルアップ勉強会

2016. 11. 17 加藤

第 108 回 『トラムセット配合錠・コンサータ錠』

ヤンセンファーマ株式会社 トラムセット 青砥 茉莉 様
コンサータ 内藤 葉 様

参加者：川村先生

野田、加納、加藤、高柳、味田村、畠山、小平

トラムセット

WHOによる3段階疼痛治療法において、まず第1段階として用いるのがアミノフェンやNSAIDs（ロキソニンやボルタレン）など一般的な非オピオイド鎮痛薬である。次の第2段階で追加されるのが弱オピオイドのトラマドールである。

トラムセットは「トラマドール」に「アセトアミノフェン」を組み合わせ、相乗効果でより強力な鎮痛作用を発揮する。

【効能・効果】

非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛

非がん性慢性疼痛

抜歯後の疼痛

【用法用量】

非がん性慢性疼痛：通常、成人は、1回1錠、1日4回経口服用する。

服用間隔は4時間以上空けること。なお、症状に応じて適宜増減するが、1回2錠、1日8錠を超えて服用しないこと。また、空腹時の服用は避けることが望ましい。

抜歯後の疼痛：通常、成人は、1回2錠を経口服用する。

なお、追加服用する場合には、服用間隔を4時間以上空け、1回2錠、1日8錠を超えて服用しないこと。また、空腹時の服用は避けることが望ましい。

※1錠中の含有量は、トラマドール塩酸塩 37.5mg、アセトアミノフェン 325mg

【特徴】

効き方が違うトラマドールとアセトアミノフェンの配合剤。

ただし、現時点 がんの痛みには認められていない。

処方対象となるのは非オピオイド鎮痛薬だけでは効果不十分と思われる場合である。器質的な痛みには効果を十分に発揮するが、精神的なものからくる痛みにはあまり効果が見られないことがある。長期服用することによる精神依存・薬物乱用は10万人に1人とほとんどみられることはない。

【副作用】

オピオイド鎮痛薬の特徴的な副作用として、吐き気や嘔吐、便秘、めまい、眠気などが現れやすい。

そのため処方時は吐き気に耐性がつくまで1-4週間は吐き気止め（ナウゼリン・プリンペラン・ノバミン）を併用する。

また眠気が出やすいため寝る前から開始することが望ましい。

【考察】

トラムセットは、NSAIDSで効果が見られずヘルニア、脊柱管狭窄症などで苦しんでいる患者さんにとって次の段階で選択される薬剤である。定期的な血液検査と副作用に注意すれば、QOL改善に大変有効な薬剤である。

複数の異なる作用により鎮痛作用を発揮するので、さまざまな痛みに安定した効果が期待できる。このため、多種多様な慢性疼痛に広く適応可能である。

初回投与時には、便秘・眠気の副作用についての説明を十分行い自己判断で中止しないよう伝える必要がある。

【質問事項】

Q1. NSAIDS・リリカと併用は可能か？

A1. 併用可能である。脊柱管狭窄症・しびれなどでは併用されることが多い。

Q2. 頓用で処方されることはあるのか？

A2. 服用して効果が出るまでに30-60分程度かかるが、可能である。

ライフスタイルにより（朝1-夕2）にするなど調整することもあり。

Q3. 風邪処方などでカロナールやPL顆粒を併用することは可能か？

A3. 医師がトラムセット服用を知ったうえで、またアセトアミノフェン1日総量1500mg以内で処方しているのであれば問題ない。

コンサータ

AD/HD（注意欠陥/多動性障害）の3つの主な特徴は「不注意」「多動」「衝動性」である。ドパミン・ノルアドレナリンが不十分であったり環境要因など複雑なため、主な治療は、薬物治療と心理治療である。子供では性差があり、男子のほうが多いが大人になると性差はあまり見られない。

コンサータは国内で初めてAD/HDに保険適応のある薬である。ほかにストラテラが治療薬としてある。コンサータは中枢神経刺激薬であるが、ストラテラ（アトモキセチン塩酸塩）は非中枢性神経刺激薬である。コンサータ処方時には医師の登録・eラーニング受講の確認や薬局の登録が必要である。

【効能・効果】

注意欠陥/多動性障害（AD/HD）

【用法用量】

<18歳未満の患者>

通常、18歳未満の患者にはメチルフェニデート塩酸塩として18mgを初回用量、18~45mgを維持用量として、1日1回朝経口服用する。増量が必要な場合は、1週間以上の間隔をあけて1日用量として9mg又は18mgの増量を行う。なお、症状により適宜増減する。ただし、1日用量は54mgを超えないこと。

<18歳以上の患者>

通常、18歳以上の患者にはメチルフェニデート塩酸塩として18mgを初回用量として、1日1回朝経口服用する。増量が必要な場合は、1週間以上の間隔をあけて1日用量として9mg又は18mgの増量を行う。なお、症状により適宜増減する。ただし、1日用量は72mgを超えないこと。

[注意 1] 本剤は中枢神経刺激作用を有し、その作用は服用後12時間持続するため、就寝時間等を考慮し、午後の服用は避けること。

[注意 2] 本剤服用前に他のメチルフェニデート塩酸塩製剤を服用している場合には、その用法・用量を考慮し、本剤の初回用量を18歳未満の患者では18~45mg、18歳以上の患者では18~72mgの範囲で決定する。ただし、本剤若しくは他のメチルフェニデート塩酸塩製剤の服用を1ヵ月以上休薬した後に本剤を服用する場合は、18mgを初回用量とすること。

[注意 3] 本剤は徐放性製剤であるため分割して服用することは適切でなく、本剤は18mg錠、27mg錠及び36mg錠の3種類のみで18mgが最小単位であるため、9mg単位の増減量が必要な場合には錠剤の種類を変更して服用すること。

【特徴】

コンサータ錠は乱用防止のため特殊な徐放性製剤であり、割ったり噛み砕いたりしないこ

と。

外皮の殻が内部の不溶性の成分と一緒に糞便中に排泄されることがある。

作用部位は、コンサータが線条体・前頭皮質・側坐核ドパミンを増やし、ストラテラは前頭皮質でドパミン・ノルアドレナリンを増やす。コンサータは作用部位が多いため様々な症状に効果がやすい。

また、ストラテラに比べて安価である。

作用時間が、コンサータ 12 時間・ストラテラ 24 時間と異なるため併用して処方されることもある。

【副作用】

比較的多いのは、口の渇き、食欲不振、吐き気、便秘、不眠、頭痛、体重減少である。

【考察】

AD/HDは子供のころから大人になっても症状が続くが、医師により判断も異なるため判別が難しく治療に至らないケースもある。早い段階で診断されれば、適切なサポートやトレーニングにより生活する上で困ることは減らすことができる。

コンサータはストラテラと異なり、維持量がないため症状により個人で設定が可能な薬剤である。便秘・食欲不振の対策をして服用コンプライアンスを上げて続けていく必要がある。

【質問事項】

Q1. AD/HDは完治することはあるのか？

A1. 薬やトレーニングにより症状が寛解することがある。